

ともが自軍十萬は勢小比まゝ。横山の城は真小是は城の首は
 咽喉也。敵をこれ小凝りて今般の如く自軍より數日の際
 攻るといふも軍卒評多換傷のこ小く。容易落城のこまじ。
 備彼城を攻るて自軍の兵士を稠立せり。淺井の為小心腹の
 病とありて自由を得む。自徳と團窮ふるべし。遠后再び小言等
 と。攻る小を双の助力あらん怖くの小居小余じこまを六一隊をりて
 暫時小横山を攻陥さん。然るべ所陣陣はなをこも。所得利より
 くるべしと言状をる小を信長も。餘小もとおがしめ。まを六汝厥量
 小思起るべ横山城攻の事を任むべし。隨言小せよと宣ひる。故
 木下秋比時刻を料まをま日も申は刻あり。薰風まを林野
 小満く。天漸く涼氣起。諸卒も大ひ小休息。これら畢竟

の响あり。と自辨三千余人を率し。號進で勃然と横山城へ推参
 る。當城の懸守小八織田信包丹羽長秀依捕まををまを
 ども帰陣の徇あり小より。既小本陣へ率返せ。六城中又小
 候。まを今日自軍惣敗と形り。決も當城保護得まじく。あり守
 圍らむ。敵をの退り。こと。いうももりつて。討。まをこまを六木下
 秀吉。二千余騎。強小泰山も踏破。小海も埋むまをりの威
 勢あり。葛地小推進あり。横山の面圍小隊位を固め。大を城を
 つる。葛城を軍と怖さ。め。攻撃んとまを威を見せられ。城中の
 軍們案の如く。強。噪ぎ。動揺。まを守將大野木土佐也。又。獲。不
 敵の勇士。まを此も。屈せ。諸士を懋。まを。既。稱。まを。津。頭。際
 ぬま。門。必死。と。覚悟。まを。骨。肉。と。極。め。て。防。禦。まを。一。決。死。せ